

若ツナサミット実施報告

2022年12月18日（日）の夜、19:00-21:30にオンラインで第2回若ツナサミットを開催しました。

「若者×ツナグバ」は、若者が、今の社会に希望を持ち、自立していくことを支援する事業です。若者一人ひとりが、社会情勢を正しく認識したうえで、多様な考え方から自分が納得のできる生き方を見つけ、その潜在能力を高め、選択肢を増やし、希望につなげていくことを目的としています。

この「若ツナサミット」は、その目的のために、若者×ツナグバに参加した5団体の成果報告会を兼ねて、参加する若者が意見交換する場です。

参加者は、今年度支援団体16名（鞆衆5名、海プロ4名、グローカル・アバンセ3名、アミーゴやまぐち2名、11=JacK2名）アドバイザーを含む招待客のベテラン5名に主催財団員の計22名でした。

19:00に開会し、まず、最初にアイスブレイクを兼ねて参加者全員を紹介しました。

続いて、

第一部、5団体による活動成果報告です（発表5分、質疑応答2分）

- ①海岸清掃プロジェクト 東広島市 大学生
“メイド・オブ・ふるさと食育プロジェクト”
- ②グローカル・アバンセ 宇部市 大学生
“「おとぎ話」で国際交流”
- ③アミーゴやまぐち 山口市 社会人+大学生
“高校生、大学生たちの居場所づくり”
- ④11=JacK(ジャック) 周南市 社会人
“山口県の福祉・介護を盛り上げたい！”
- ⑤鞆衆（ふいごしゅう） 山県郡安芸太田町 社会人
“空き家を多世代交流の拠点に！棚田の魅力を発信！”

各団体が自分たちの活動をしっかりとまとめた資料を使っのの良い発表でした。また、互いに活発な質疑応答がなされました。

ここで休憩

第二部 意見交換会。テーマは、「“仕事・学業”と“市民活動”のバランスどうしてる？」です。

まず、5団体から選出された6名のパネリストに、自分の考える「“仕事・学業”と“市民活動”のバランス」を1～2分程度で発表していただきました。

優先順位を付けて行っている。楽しめるか、無理していないかがポイント。お互いを尊重し合い、できる人がやる。との意見がありました。

これらの話を受けて、ブレイクアウトルームに分かれて30分間のグループディスカッションを行いました。グループは、各団体のメンバーがなるべく含まれるようにし、代表をリーダー、副代表をサブリーダーとした。また、男女が偏らないように調整。アドバイザーを分け、招待客も偏らないように調整した。

リーダーが全体の進行を行い、サブリーダーが書記と全体での発表を行いました。

グループディスカッション終了後、全体に戻って、各グループで出された意見を発表してもらいました。

楽しむこと。役割が負担になっていないか。それぞれ熱量が異なる。やってあげているという感覚ではなく自分のために学ぶという姿勢が大切。切り替えや時間調整のマネジメントが大切。モチベーションが上がらないときはメンバーと話をするのが良い。心の負担を共有する、等、色々な意見が出されました。

最後にアドバイザーの柿沼さんから一言。

それぞれ多様な活動をしている人たちがこのようところで繋がっているのが良い。型にはまる必要はない。それぞれがそれぞれの形で取り組めばいい。皆さんの頑張りをみて、私も頑張ろうと言う気持ちになった。

集合写真を撮影して終了としました。

<主催者感想>

- ・若者たちが互いの活動を尊重し、活発に意見交換を行うことで良い繋がりができたのではないだろうか。
- ・隔月で定期交流会をしているのと、若ツナフェスタで顔を合わせているので、団体メンバーの多くは顔見知りで、連帯感があり話しやすかったようでした。
- ・ブレイクアウトルームに分かれての議論は、少人数で話し合えるので好評で、どのグループも時間が足りなかったようです。

- ・昨年が続いて2度目の開催でしたが、今回は、外部からの参加がなく、少し寂しい感じがありました。
- ・この若ツナサミットは、成果発表と意見交換という目的以外にも、次年度に繋がる参加団体以外の若者との繋がりを期待していましたが、一般参加の若者がゼロで、各団体からの参加者も昨年より少なかったのは大変残念でした。
- ・若者に対する支援は何が必要なのか、どうすれば若者が集まってくるのか、今回も課題として残りました。
- ・我々と一緒に何かをやろう、やりたいという若者の参加を期待しています。

文責 マツダ財団 井上

